

2017年10月16日
公益財団法人実験動物中央研究所

実中研の研究員がタイ国立科学会議の主催で行われた動物実験セミナーで講師を務めました

この度、タイ国立科学会議（National Research Council of Thailand・NRCT）の主催で実中研の嘱託研究員である伊藤豊志雄、横山峯介、日置恭司各氏による動物実験に関するセミナーが9月27日、28日に開催されました。本セミナーはタイ国でのマヒドン大学、野村事務所そして日本クレアの合弁会社M-CLEA Bioresource Co., Ltd（MCBC）による、同国で初めてのSPFマウス・ラットの生産供給が開始されたことが契機となったものです。本セミナーはNRCTから日本クレア社を通じて要請され、実中研が全面的に協力することになったものです。

セミナーは、本格的なバリア施設が普及していないタイ国においてSPF動物の説明やその使用にあたっての原則や準備の重要性を紹介する内容でした。具体的には、SPF環境での飼育を先導してきた実中研の歴史に始まり、感染症、バリア施設とその運営、滅菌・消毒の他に、実験動物の品質管理の重要性（品質を検証するモニタリングや飼育者や実験者の教育）です。また、SPF動物の話題だけでなく、遺伝的品質管理や今後その使用増加が予想される免疫不全マウスや遺伝子操作マウスの使用にあたっての留意事項も紹介しました。

セミナーではスライドやビデオは英語表記、説明は日本語、それをタイ語に通訳するという方法を採用しました。ビデオの準備、スライドの英訳には日本クレア社、タイ語の通訳については野村事務所のご協力をいただきました。バンコク市内のホテルのセミナー会場は100席ほど準備されていましたがほぼ満席、セミナー会場前のエントランスでは飼育器具機材等の展示も行われました。参加者は獣医師が主体で質疑応答も活発に行われ、主催したNRCTの関係者からも高い評価を得ました。

今回のセミナーがSPF施設を用いたタイの動物実験の発展に繋がることを願っています。

最後に本セミナーにご協力いただいた日本クレアの木本重信代表取締役社長並びに井上喜久美、野村事務所の神谷泰一郎、轟利美、ポーシリ・ナッタヴァット各氏に御礼申し上げます。

（文責：伊藤豊志雄）



写真は本セミナーの講師と協力した日本クレア社、野村事務所の方々